

心あたたまる地域社会の実現をめざす

一、ねらい

わが国の経済成長や技術革新の進展はめざましく、急激な社会構造の変化とともに、人々の物質的生活は豊かになり、余暇時間は増加して来ましたが、しかし反面、自然の破かい、人間疎外、地域連帯意識の減退等、好ましくない現象をひき起こし、特に青少年の健全育成の立場から数多くの問題が生じつつあります。

二、内容与方法

青少年が集団活動によって、次の二領域の内容を中心として、年間を通じ継続的に実践していきます。

(1) 地域における伝統の継承発展を図り郷土愛の精神を培う活動。

〔活動例〕

○郷土芸能、工芸などの継承活動

○伝統行事の継承活動

○郷土の自然、歴史の学習等

○地域の生活環境を豊かにしようとする活動

〔活動例〕

○花や木を植える運動

○生活環境などの清掃美化活動

○その他奉仕的活動

活動は青少年が自主的・主体的に行いますが地域全体が、こそって協力参加する住民活動にまで高め、住民相互の連帯感の醸成に努めます。

本年度は県下十四市町において実施し、五十一年十一月から五十二年二月までの間に実施市町の発表会をもつとともに、二月には県の総合的な発表大会を実施する計画です。

三、発展

この活動を推進することによって、県

下各地域に、自主的な活動グループが結成され県民全体の活動として拡大発展



荒尾市平井青年会会長 青山 日出男

「青少年ふるさと運動」の実践

私たちが平井青年会に対し、市教育委員会から「青少年ふるさと運動」の趣旨について話があった時、かねてから、それぞれ青年会員の胸の中に、ふつふつとしていたものに油をそそがれたように、誰からともなく「よし、やろう」という力強いことが、ほとぼり出た。

決定した以上は、さっそく取りかかろうということで、毎夜のように公民館で計画を練った。その計画が出来あがったとき、小さな活動ではあるが、地域のために役だてるということが、何にもましてうれしかった。

第一回は文化財である岩本橋と、その周辺の清掃作業で、朝九時三十分全員用具を持って集合した。

子どもの頃から馴れ親しんで来た岩本橋ですが雑草はおい茂り、ごみは散乱

し、美しい自然とともに心あたたまる地域社会の実現を期待しています。

し、郷土の先人が残してくれた文化的遺産として世間に誇るには、あまりにもわびしい姿でした。

作業が開始されると、誰もひとこともしゃべらない、もくもくと作業にとりくんでいる。今まで放置して来た責任を痛感しているかのように……。

その時私たちにあって、この上もなくうれしい出来ごとが起こったのです。

私たちが青年会の活動を知った地域婦人会や、子ども会が手に手に用具を持って参加協力して来たことです。それぞれ適当な作業分担をし、和気あいあいのうちに十二時三十分終了、女子部が作ったにぎりめしをほおばった後、見ちがえるようになった。岩本橋を背景に塚本先生から郷土史についての講義を聞き散会しました。

聞くところによると、次回からは敬老会も参加したいとか……。

私たちが青年のささやかな活動が、地域全体に波及しそうな現実にあふれ、地域連帯の心の輪を感じるとともに、世のために、ささやかなことではあるが、貢献することの尊さをしみじみと味わっている次第です。

地熱開発への期待

住民福祉の増進と地域の振興を

はじめに

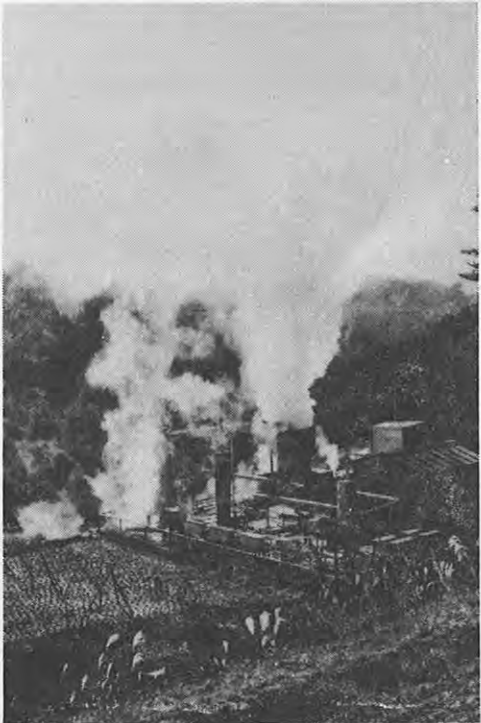
世界的に深刻化するエネルギー資源問題には、各国ともその対策に腐心してまいります。

我が国ではエネルギー資源の殆んどを外国に依存しており、その確保は今や大きな課題であります。しかし我が国にはエネルギー資源が決してないわけではありません。

世界でも有数の火山国である日本には殆んど無尽蔵ともいえるクリーンな地熱エネルギー資源があります。地熱は古来より温泉として利用されていますが、発電エネルギーとして地熱資源が利用されてからは、まだわずかの年数しかありません。しかし、このように利用の歴史が新しく、これまで個別に計画され、また開発されていた我が国の地熱資源の開発も、昭和四十九年度から発足した国のサンシャイン計画により徐々に脚光を浴び「地熱エネルギー資源の開発及び利用技術の開発」が積極的に進められることとなり、ようやく利用普及の道が開かれつつあります。

地熱資源と開発

私達が生活している大地の温度は、地中深くなるにつれて温度があがり、深さ百キロメートル程度で約摂氏千度に達していると考えられています。これが火山



▲ 小国町岳湯のボーリング調査

や特殊な地域では深さ数キロメートルの浅いところに摂氏千度前後のマグマ溜りがあり、その熱により加熱された地下水が蒸気及び熱水となって地中に包蔵されています。そこで、その蒸気及び熱水を地上に取り出し、これを電源開発に利用するとともに更に余剰熱水につぎまして

等多目的に活用し、ひいては住民福祉の増進、地域振興等に利用することが考えられます。

経緯

本県は阿蘇という世界的火山を擁し、地熱の有望性に早くから着目し通産省と共に小国、地獄、垂玉地域について昭和

二十六年から二十余年間に亘り地熱開発のための基礎調査を実施してきました。その中でも特に昭和四十年から五十年計画を策定し、通産省工業技術院地質調査所と共同で阿蘇郡小国町「岳湯、峽湯」地域を中心に八本のテストボーリング調査を行い地熱開発について非常に有望な結果を得ました。また国のサンシャイン計画も小国地域の地熱資源を重視し、地元関係地域の協力を得て県とともに精度の高い調査を進め今日に至っております。

地熱開発の今後と問題点

今後、地熱の開発を進めるに当たりましては、これまで県において集めました調査資料を基礎として、国の具体的調査の進展に対応した方策を進めて行きます。その間、技術、財政、環境等において解決を要する問題についても、積極的にとり組んでいきたいと考えています。阿蘇はその雄大な自然景観において他に類例を見ない自然公園であり、本県を象徴する貴重な観光資源です。

この貴重な資源を害なうことなく、どのように自然を護り、環境と調和した実りのある開発を実現するか、この点が地熱開発にとって最大の課題であります。

この地熱開発ということにつきましては、県民のコンセンサス、学識経験者の方々の御協力等、県民の皆様方の意志を結集して当りたいと考えておりますが、何にもまして地域住民の方々の御理解、御協力を得ることが大前提であります。